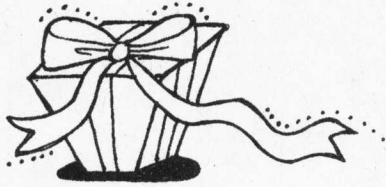


えんどうまめ通信 

H24・12月 vol.3

練馬区立中村小学校 心のふれあい相談員だより

遠藤 絵里



「ギフトを見つける」

年末が近づいてきました。街はイルミネーションで飾られ、贈り物を送ったり、いただいたり……なんとなくワクワクする季節ですね。

この季節によく使う「ギフト」という言葉は、プレゼントよりちょっといい贈り物、というニュアンスの他に、「もともと与えられている才能」という意味もあります。絵を描くことが好き、計算が得意、足が速い、楽器ができるということ以外にも、リーダーシップがある、よく気がつく、などもそうでしょう。でも才能といっても、限られた子に与えられている、何かにひいでた才能だけではなく、一人一人がもっている「持ち味」のようなものを含めて「ギフト」とも考えられるのです。つまり誰にでも、どんな人にも、ギフトは初めから与えられているのです！

子どもたちと話していると、自分のなかのギフトに気づいていない子が多くて、もったいないなあ〜と感じることがあります。私が作った「おもしろ質問用紙」というもの（相談室ではネガティブな話が多いので、時々この紙に書いてもらい、前向きな話をする）には「好きな食べ物は？」「今まで一番嬉しかったことは？」などに並んで「ぼくの（わたしの）いいところは？」という質問をのせています。が、この質問で手が止まってしまう子が多いのです。謙遜かな、とも思いますが、真剣に自分のいい所を思いつかない、と頭を抱える子もいるように見えます。皆様はいかがですか？ ご自分のいいところ、いくつ思いつくでしょうか？

私たちは「長所」「いい所」というと、～が得意、～ができる、あるいは優しい、素直などを思い浮かべることが多いかもしれませんね。でも、少しずつ視野を広げていくと、もっと広い意味での持ち味を、長所として生かしていけることに気づくのではないかな、と思います。

例えば、先日の展覧会では、一人一人の個性が見られて素敵だな〜と思いました。決して絵が得意という子ばかりではないでしょう。でも同じテーマの1枚の絵でも、大胆に描ける子、繊細なタッチで描きこむ子、発想が素晴らしい子、色づかいが美しい子、仕上げるのが早い子、最後まで頑張る子、さらには人の作品をちゃんとほめることができる子…などなどを見つけ、どの作品からもその子の持ち味が伝わってきました。繊細な子が、神経質でイライラしていたら短所になるでしょうが、細かい作業をきちんとやれば、それは長所になります。技術がなくてもアイデアのすばらしさに気づいてあげれば、それは長所としてのびていくでしょう。

せっかく与えられているギフト・持ち味を長所として認め、輝かせてあげたいですね！

冬休み、ご家族でそれぞれの持ち味は何かな〜？と話してみてください。たくさんギフトをもっていることに気づいて、温かい気持ちで年末年始を過ごせるといいですね〜。

どうぞお体に気をつけて、よいお年をお迎えください。

相談室直通電話 080-2010-1957 月・水(9時~2時)・木(9時~3時) (火曜日は皆川先生です)

子育ての愚痴や、ちょっと聞いてほしいんだけど……ということも、どうぞお気軽にご連絡ください。